



## Osaka Gakuin University Repository

Title	「韓語覚書」の朝鮮語かな表記について ― 子音について ― Marking Consonants: “A Vocabulary List of the Korean Language (韓語覚書)” and the Japanese notations of the Korean language in the late seventeenth-century Tsushima Island
Author(s)	金 文姫 (Kim Moon-Hee)
Citation	大阪学院大学 外国語論集 (OSAKA GAKUIN UNIVERSITY FOREIGN LINGUISTIC AND LITERARY STUDIES), 第 73 号 : 23-47
Issue Date	2017.6.30
Resource Type	Article/ 論説
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	

# 「韓語覚書」の朝鮮語かな表記について — 子音について —

金 文 姫

## 1. 序

対馬歴史民俗資料館には従来朝鮮語史研究者の視野の外にあった新資料『信使并譯官聘問之次第（仮題）』の附「韓語覚書」が所蔵されるが、本論文は、その朝鮮語かな表記の子音部分について調査・考察をおこなったものである<sup>1</sup>。

該書は、対馬歴史民俗資料館所蔵〔図書番号：宗家文庫、記録類、朝鮮関係 R-5〕<sup>2</sup> 1冊、写本全11丁から成る。1丁から5丁表までは、日本側の倭館館守等が朝鮮側の訓導等に宛てた漢文の書簡とその和訳の用例集、6丁表から9丁表までは、「信使并譯官聘問之次第」で、年代順に通信使・訳官使を列挙したものである<sup>3</sup>。9丁裏から11丁裏までが、本論文の調査対象の「韓語覚書」（以下〔韓〕と略記する）であるが、かなで表記された朝鮮語の単語および文が収められている。たとえば、

	終 <sup>テヨ</sup> 始 <sup>シ</sup>
和 鮮	
ヲ ナ	
ハ シ	
ル ユ	
マ グ	
テ ト	
ト ロ	
云 キ	
心 ラ	
也 ハ	
	ント
	チ
	ラ

のごとく、まず、漢字の見出し語を示し、その右横にカタカナで朝鮮語の発音を書き、さらに、その下に朝鮮語と日本語で単語の意味を説明してある。

## 2. 朝鮮語かな表記の子音について

一体かなで表記された朝鮮語の資料は、ハングルで表記された本国資料からは窺い知れない音声・音韻的情報を伝えることがあり、従来から『全一道人』<sup>4</sup>（以下〔全〕と略記する）、『朝鮮語訳』<sup>5</sup>（以下〔訳〕と略記する）などの朝鮮語かな表記資料が朝鮮語および日本語の音韻史資料として利用されてきた。ここに取り上げる〔韓〕もそれらの既存資料に匹敵する資料的価値を有するものと予想されるが、本章では、とくにその子音部分の転写システムについて、かな表記とハングル表記復元形とを対照しつつ検討する。なお、必要に応じて適宜、既存の朝鮮語かな表記資料とも比較する。そして、本書が、既存の朝鮮語かな表記資料とおおむねは類似した傾向を示す一方で、「ㄷ(d)」<sup>6</sup>口蓋音化を過剰訂正した特異な例も散見され、朝鮮語東南方言の特徴を顕著に示す独自性も有することなどを主張する。

### 2.1 破裂音

#### 2.1.1 ㄱ(g)

##### (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㄱ」は総34例。そのうち、30例に「カ行音」、3例に「ガ行音」が当てられている。残り1例はかな表記がない。

「ガ行音」のかなが当てられた3例は、語の区切れの後に現れてはいるものの、むしろ語中の例とみなすべきもので、すべてが依存形式であり、「ㄱ」に鼻音<sup>7</sup>が前接する場合である。

[表1] [韓] の語頭初声「ㄱ」に対するかな表記

「カ行音」	*36	コグドロイ	[ <u>공</u> 도로이] <sup>8</sup>	*54	カラチタン	[ <u>마</u> 치단]
依存形式の場合						
「カ行音」	*61	サロムル サロカイ ハノン	コシラ	[사름을 사 <u>ㄹ</u> 게하 <u>ㄴ</u> <u>것</u> 이라]		
	*40	フロミヤ クルン	ゴスル	[옴으 <u>며</u> 그른 <u>것</u> 을]		
「ガ行音」	*53	アム マリラト ニルノン	ゴシラ	[아 <u>ㅁ</u> 말이라 <u>도</u> 니르 <u>ㄴ</u> <u>것</u> 이라]		
	*69	サロムル ホ* <sup>9</sup> ツサ*イノン	ゴシラ	[사름을 보 <u>ㅅ</u> 네 <u>ㄴ</u> <u>것</u> 이라]		

## (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㄱ」は、総22例。そのうち、21例に「カ行音」、1例に「ガ行音」が当てられている。「ガ行音」が当てられた例は、鼻音が前接した場合である。

[表2] [韓] の語中初声「ㄱ」に「カ行音」が当てられたもの

①終声「ㄱ(g)、ㅇ / ㅈ(t)」 + 「カ行音」(濃音化)						
*11	カク <u>ㄱ</u>	[각 <u>ㄱ</u> ]	*66	ソ*イイツ <u>ㄱ</u> 이	[쇠잇 <u>ㄱ</u> ]	
②終声「ㅎ(h)」 + 「カ行音」(激音化)						
*34	チヨツ <u>ㄱ</u> 이	[똥 <u>ㄱ</u> ]				
③母音 + 「カ行音」						
*11	ソイ <u>ㅁ</u> 리라	[제 <u>ㅁ</u> 이라]	*61	사로 <u>ㄱ</u> 이	[사 <u>ㄹ</u> 게]	
④終声「ㄹ(r)」 + 「カ行音」						
*19	サル <u>ㄱ</u> 브타	[술 <u>ㄱ</u> 다]	*47	모르 <u>ㄱ</u>	[멀 <u>ㄱ</u> ]	

[表3] [韓] の語中初声「ㄱ」に「ガ行音」が当てられたもの

鼻音 + 「ガ」	*1	サムギン	[생 <u>ㄱ</u> ]	(参考)鼻音 + 「カ」	*52	ヲム	キヨ	[엄 <u>ㄱ</u> ]
					*52	サロム	ケイ	[사름 <u>ㄱ</u> ]

以上の例において、濁点をふった「ガ行音」が当てられたものが鼻音が前接する場合に限られている点が注目される。この傾向は、他の朝鮮語かな資料でも観察され、[全]・[訳]の語中初声「ㄱ」も、「カ行音」と「ガ行音」のかなが当てられているが、「ガ行音」で現れるのは、「ㄱ」に鼻音が前接した場合である。

[全: 66] ハンガチロ: 一様に [한가지로]

[訳: 1:23a] イリヨランゴ: 儀て御坐るか [일이온고]

この現象は、当時の日本語の「ガ行音」が有声性だけではなく鼻音性も有していたことを示すものと考えられる<sup>10</sup>。

ところで、[韓]には、本来形の「ㄱ」ではなく、もともと「ㄷ(d)」であったものが高舌母音の前で口蓋音化して「ㅈ(j)」に変化し、さらに過剰訂正によって「ㄱ」に転じた例が散見される。

[表4] [韓]の過剰訂正により生じた「ㄱ」の例

「カ行音」と「ガ行音」のかな		
*12/*14	ト <u>ギ</u> ラ / ト <u>キ</u> ラ	[ <u>뜰</u> 이 <u>라</u> > <u>뜨</u> 지 <u>라</u> > <u>뜨</u> 기 <u>라</u> ]
(参考)*2	ト <u>チ</u> ラ	[ <u>뜰</u> 이 <u>라</u> > <u>뜨</u> 지 <u>라</u> ] (過剰訂正がなされていない例)

この「ㄱ」過剰訂正は、「ㄱ」が口蓋音化して「ㅈ(j)」になる現象の存在を前提としており、朝鮮語東南方言に特徴的な現象である<sup>11</sup>。[韓]が朝鮮語東南方言を反映した資料であることを物語るものと言えよう。

なお、この例において、鼻音が前接しないにも関わらず濁点を付した「ギ」が現れている点が特異である。あるいは、[韓]の成立当時において、「ガ行音」がすでに鼻音性を喪失しはじめていたことを示すものかもしれない。

### (3)終声

[韓]の終声「ㄱ」は総17例。15例が「カ行音」で現れ、残り2例はかな表

記がない。

〔表 5〕 〔韓〕の終声「ㄱ」に対するかな表記

「ク」	*9	タムヨ <u>ク</u>	[탐 <u>옥</u> ]	*89	タグテ <u>ク</u>	[탕 <u>턱</u> ]
-----	----	--------------	---------------	-----	--------------	---------------

## 2.1.2 ㄷ(d)

### (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㄷ」は総13例。11例に「タ行音」、2例に「タ\*行音」を当てる。「タ\*行音」が当てられた例は、「ㄷ」が口蓋音化して「ㄷ\*」に変化したものである。

〔表 6〕 〔韓〕の語頭初声「ㄷ」に対するかな表記

「タ行音」	*7	タ <u>グ</u> ソ*	[ <u>당</u> 초]	*10	トヲツヘ*ン	[두 <u>편</u> ]
	*34	チヨツカ <u>イ</u>	[ <u>동</u> 개]	*60	ト/ツ/ンノ <u>ン</u>	[ <u>들</u> 논]
「タ*行音」	*49	テ* <u>グ</u> ネ <u>グ</u>	[ <u>뎡</u> 녕]	*76	テ* <u>ン</u> ジャ <u>グ</u>	[ <u>뎡</u> 장]

### (2)語中初声

〔韓〕の語中初声「ㄷ」は、総38例が現れ、29例に「タ行音」、8例に「ダ行音」、1例に「タ\*行音」を当てる。「ダ行音」が当てられるのは、おおむねは「ㄱ」の場合と同じく鼻音が前接する場合であるが、鼻音が前接しない場合においても「ダ行音」が当てられることがある。「タ\*行音」が当てられた例は、「ㄷ」が口蓋音化して「ㄷ\*」に変化したものである。

[表 7] [韓] の語中初声「ㄷ」に対するかな表記

①終声「ㄱ(g)、ㄷ(t)、ㄹ(b)」+「タ、タ*行音」(濃音化)					
*30	マツ <u>タ</u> チャノン	[맛 <u>당</u> 참ㄴ]	*89	シク <u>タ</u> ン	[씩 <u>단</u> ]
*75	ヲゾロ <u>ブ</u> タ	[어즈럽 <u>다</u> ]	*51	コク <u>テ</u> *グ	[각 <u>뎡</u> ]
②母音+「タ、ダ行音」					
母音+「タ行音」			母音+「ダ行音」		
*18	レ <u>タ</u> イロ	[레 <u>대</u> 로]	*74	セ <u>ダ</u> イロ	[세 <u>딕</u> 로]
③終声「ㄹ(r)」+「タ行音」					
*38	ドル <u>タ</u>	[널 <u>다</u> ]	*82	イル <u>タ</u> ン	[일 <u>단</u> ]
④鼻音+「ダ、タ行音」					
鼻音+「ダ行音」			鼻音+「タ行音」		
*17	ウグ <u>ダ</u> ギ	[응 <u>당</u> ]	*2	ナシユグ <u>ト</u> ロキラ	[내 <u>종도</u> 록이라ㄴ]
*24	ムン <u>ド</u> ク	[문 <u>득</u> ]	*15	テ*ン <u>タ</u> イロ	[전 <u>대</u> 로]
*71	ドグ <u>ダ</u> ム	[농 <u>담</u> ]	*71	シヤグ <u>ト</u> ク	[상 <u>동</u> ]
*88	タム <u>ダ</u> グ	[담 <u>당</u> ]	*48	ハグ <u>タ</u> グ	[황 <u>당</u> ]

鼻音が前接しない場合においても、ときに「ダ行音」が当てられることがあるのは、その他の朝鮮語かな表記資料にも共通して見られる現象である。[全]および[訳]でも、語中初声「ㄷ」に「ダ行音」が当てられるのは、おもに鼻音の後であるが、鼻音以外の有声音の後で現れることもある。

[全: 24] ソンゾドルハ: 孫たちを [손조들을]

[訳: 1:2b] ナイ マルダイロ: 私申分を [내 말대로]

このように「ㄷ」には「ㄱ」の場合にはない例外が現れるが、これは、日本語の濁音の歴史的変遷過程と関連があるものと見られる。安田 (1973)<sup>12</sup> は、『捷解新語』<sup>13</sup> における「ガ行音」と「ダ行音」に対するハングル音注の違い(前者はほぼ必ず鼻音を前置させるのに対し、後者は鼻音を前置させるものとさせないものが混在している)に基づき、日本語濁音の鼻音的要素の消失は「ガ行

音」よりも「ダ行音」において先に起こったとの推論を提示している。朝鮮語かな表記資料に見られる「ㄱ」と「ㄷ」に対するかな表記の如上の違いは、『捷解新語』に見られる現象と軌を一にするものであり、当時の日本語濁音において、「ガ行音」が未だ鼻音性をほぼ保持していたのに対し、「ダ行音」は徐々に喪失していく過程にあったことを示すものと考えられる。

### (3)終声

〔韓〕には、終声「ㄷ」の例は見当たらないが、「ㄷ(s)」が終声の位置において「ㄷ」に中和された例が見られ、すべて「ツ」が当てられている。

〔表 8〕 〔韓〕の終声「ㄷ」に対するかな表記

「ツ」	*4	モ <u>ツ</u> トロ	[ <u>모</u> 도록]	*61	コ <u>ツ</u> ト	[ <u>것</u> 도]
	*53	ウ <u>ツ</u>	[ <u>웃</u> ]			

## 2.1.3 ㄷ(b)

### (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㄷ」は、総20例が現れ、18例が「ハ\*行音」、2例が「ハ行音」を当てる。

〔表 9〕 〔韓〕の語頭初声「ㄷ」に対するかな表記

「ハ行音」	*50	ホ <u>ク</u> ボキ	[ <u>벽</u> 버기 / <u>벽</u> 벽이]
「ハ*行音」	*26	フ* <u>ル</u> ウイ	[ <u>블</u> 의]

### (2)語中初声

〔韓〕の語中初声「ㄷ」は、総7例。4例に「バ行音」、3例に「ハ\*行音」を当てる。母音終わりと終声鼻音(ㄴ(n)、ㅇ(ŋ))の後で「バ行音」と「ハ\*行音」で現れ、終声「ㄱ(g)」の後では「バ行音」(例\*50)で現れている。



[表10] [韓] の語中初声「ㄷ」に対するかな表記

「バ行音」	*50	ホク <u>ボ</u> キ	[ <u>ㅍ</u> ㅍ <u>ㅂ</u> 기 / <u>ㅍ</u> ㅍ <u>ㅂ</u> 이]	*57	フ* <u>ン</u> ベ <u>ル</u>	[ <u>분</u> 별]
	*68	ビ <u>バ</u> グ	[ <u>비</u> 방]			
「ハ*行音」	*29	マ <u>グ</u> ハ* <u>ル</u>	[망 <u>발</u> ]	*52	フ* <u>ン</u> フ*	[분 <u>부</u> ]
	*67	ホイハ* <u>グ</u>	[ <u>휘</u> 방]			
有声音＋「ハ*行音」(①)、非有声音＋「バ行音」(②)						
①*29	マ <u>グ</u> ハ* <u>ル</u>	[망 <u>발</u> ]	②*50	ホク <u>ボ</u> キ	[ <u>ㅍ</u> ㅍ <u>ㅂ</u> 기 / <u>ㅍ</u> ㅍ <u>ㅂ</u> 이]	

以上の語頭・語中の初声「ㄷ」に対するかな表記を観察するに、おおむねは、無声音 [p] として発音される場合には「ハ\*行音」を、有声音 [b] として発音される場合には「バ行音」を当てたものと見られる。

### (3)終声

[韓] の終声「ㄷ」は、総 7 例。5 例が「プ」、「フ\*」と「ム」が 1 例ずつ現れる。「ム」が現れるのは、終声の「ㄷ」の後続の初声に鼻音「ㄴ」がある場合である。

[表11] [韓] の終声「ㄷ」に対するかな表記

「プ」	*19	サルコ <u>プ</u> タ	[ <u>솔</u> 갑 <u>다</u> ]	*62	ト <u>プ</u> タ	[ <u>돋</u> 다]
	*19	スルコ <u>プ</u> タ	[ <u>슬</u> 갑 <u>다</u> ]	*75	ヲゾロ <u>プ</u> タ	[어즈럽 <u>다</u> ]
「フ*」	*25	ク <u>フ</u> *?コ	[ <u>급</u> 거]			
「ム」	*28	ヲ <u>ム</u> ノン	[ <u>엷</u> 눈]			

#### 2.1.4 ㄷ(k)

[韓] の語頭初声と語中初声「ㄷ」は、総 2 例。すべて「カ行音」のかなが当てられる。

[表12] [韓] の語頭・語中初声「ㄷ」に対するかな表記

語頭	*36	ク <u>タ</u>	[크 <u>다</u> ]	語中	*45	ヘ* <u>ン</u> カイハタ	[편 <u>캐</u> 다]
----	-----	------------	---------------	----	-----	------------------	----------------

## 2.1.5 ㅌ(t)

## (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「ㅌ」は、総4例。すべて「タ行音」が当てられる。

[表13] [韓] の語頭初声「ㅌ」に対するかな表記

「タ行音」	*9	タムヨク	[탐 <u>육</u> ]	*89	タ <u>グ</u> テ*ク	[탕 <u>덕</u> ]
-------	----	------	---------------	-----	----------------	---------------

## (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㅌ」は、総5例。4例が「タ行音」、1例が「タ\*行音」で現れる。「タ\*行音」が当てられた例は、「ㅌ」が口蓋音化して「ㄷ(c)」に変化したものである。

[表14] [韓] の語中初声「ㅌ」に対するかな表記

「タ行音」	*9	タム <u>タ</u>	[탐 <u>타</u> ]	*77	ベ <u>ン</u> ト <u>グ</u>	[번 <u>통</u> ]
	*32	モツトル <u>タ</u> ハン	[못 <u>홀</u> <u>타</u> <u>흔</u> ]			
「タ*行音」	*89	タ <u>グ</u> テ*ク	[탕 <u>덕</u> ]			

## 2.1.6 ㅍ(p)

## (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「ㅍ」は、総4例。「ハ\*行音」が2例、「ハ行音」と「バ行音」が1例ずつである。

[表15] [韓] の語頭初声「ㄹ」に対するかな表記

「ハ行音」	*32	ヘナンチ	[ <u>편</u> 안치]	「ハ*行音」	*10	ヒ*ツサ*イ	[ <u>피</u> 츠]
「バ行音」	*50	ビレン	[ <u>필</u> 연]		*36	ヘ*ンカイハタ	[ <u>편</u> 캐하다]

## (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㄹ」は、総10例。9例が「ハ\*行音」、1例が「バ行音」のかなで現れる。また、激音を表すため「ハ\*行音」の前に「ツ」をとともなうこともあるが、これは、[全]、[訳] でも同様にみられることである。

[表16] [韓] の語中初声「ㄹ」に対するかな表記

「バ行音」	*43	ナグ <u>バイ</u>	[ <u>낭</u> 패]	「ハ*行音」	*1	セグフ*ミ	[성 <u>품</u> ]
					*33	フ*ルヘ*グ	[블 <u>평</u> ]
					*30	ヒ*ツヘ*ン	[비 <u>편</u> ]

## 2.2 破擦音

## 2.2.1 ス(j)

## (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「스」は、総22例。「タ行音」が10例、「タ\*行音」が5例、また、「サ\*行音」が4例、「サ行音」と「ザ行音」が1例ずつである。残り1例は、かな表記がない。

「스」は、後続する母音によって、様々なかなで表記されている。「タ行音」のかなは「チ、テ\*、ツ」、 「サ行音」のかなは「ソ、ゾ、ソ\*」の様々な形で現れる。これを表にまとめると、以下のようである。

[表17] [韓] の語頭初声「ㄷ」に対するかな表記の分布

	ア段	イ段	ウ段	エ段	オ段
「サ行」					ソ
「ザ行」					ゾ
「サ*行」					ソ*
「タ行」		チ	ツ		
「タ*行」				テ*	

[韓] の「ㄷ」の用例数が少ないが、「オ段」には「サ行・ザ行・サ\*行音」のかなが現れ、「イ段、ウ段、エ段」には、「タ行・タ\*行音」のかなが現れることが分かる。以下の表は「ㄷ」の具体的な用例である。

[表18] [韓] の語頭初声「ㄷ」に対するかな表記

「サ行音」	*11	<u>ソ</u> イコミラ	[제 <u>ㅅ</u> 곰이라]	「ザ行音」	*62	<u>ゾ</u> ソ	[조 <u>ㅅ</u> ]
「サ*行音」	*24	<u>ソ*</u> ルエン	[출연]	*78	<u>ソ*</u> イイネ	[죄인의]	
	*66	<u>ソ*</u> イイツカイ	[죄잇게]	*78	<u>ソ*</u> イメグル	[죄명을]	
「タ行音」	*2	<u>チ</u> ヨグシ	[종시]	*34	<u>チュ</u> ツヘ*ン	[쥬편]	
	*63	<u>ツ</u> ノン	[주느]	*66	<u>ツ</u> ザク	[조작]	
「タ*行音」	*15	<u>テ*</u> ンタイロ	[전대로]	*39	<u>テ*</u> クタ	[적다]	
	*28	<u>テ*</u> グシン	[정신]				

## (2)語中初声

語中初声の場合も同様に、「サ行音」のかな（シ、ジ、ゾ、ソ\*）と「タ行音」のかな（チ、ツ、ヅ、ツ\*、テ\*）で現れる。

[表19] [韓] の語中初声「ㄷ」に対するかな表記

「サ行音」	*2	ナ <u>シ</u> ユグ	[내 <u>중</u> ]			
「ザ行音」	*41	コク <u>ジ</u> ヤク	[공 <u>정</u> ]	*75	ヲ <u>ゾ</u> ロブタ	[어 <u>즈</u> 럽다]
「サ*行音」	*23	サ*ク <u>ソ</u> *ヲル	[창 <u>졸</u> ]	*63	フ* <u>ソ</u> * <u>ク</u>	[부 <u>조</u> ]
「タ行音」	*13	ウイ <u>チ</u>	[의 <u>지</u> ]	*61	ヲト <u>ツ</u> ン	[얻어 <u>준</u> ]
	*73	コヲ <u>ツ</u> ク	[거 <u>죽</u> ]	*78	タ <u>チ</u> ム	[다 <u>집</u> ]
「ダ行音」	*8	チム <u>ヅ</u> 、ラ	[집 <u>죽</u> 이라]			
「タ*行音」	*45	シヤグ <u>ツ</u> *ア	[상 <u>좌</u> ]	*81	ム <u>テ</u> *グ	[무 <u>정</u> ]

## 2.2.2 ㄷ(c)

### (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「ㄷ」は、総4例。1例が「サ\*」、1例が「ソ\*」で現れる。残り2例にはかな表記がない。

[表20] [韓] の語頭初声「ㄷ」に対するかな表記

「サ*行音」	*7	<u>ソ</u> *イミラ	[처 <u>음</u> 이라]	*23	<u>サ</u> *ク <u>ソ</u> *ヲル	[창 <u>졸</u> ]
--------	----	---------------	-----------------	-----	--------------------------	---------------

### (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㄷ」は、総10例で「タ行音」と「サ行音」で現れる。

「ㄷ」は、「ト(a)」の前で「チヤ」、「ㄹ(o)」の前で「ソ\*」、「ㄷ(i)」の前で「チ」、「ㅇ(e)」の前で「サ\*、チヤ」、「ㅇ(yo)」の前で「チヨ」、「ㅅ(ai)」の前で「サ\*イ」で現れる。

[表21] [韓] の語中初声「ㄷ」に対するかな表記

「タ行音」のかな							
ㄷ + 「ㄱ (a)」	*30	マツ <u>ヂ</u> ヤノ	[ <u>맛</u> 당 <u>찰</u> 노]				
ㄷ + 「ㅣ (i)」	*32	ヘナ <u>ン</u> チ	[ <u>편</u> 안 <u>치</u> ]	*40	カイ <u>ツ</u> チヤ	[씨 <u>치</u> 아]	
	*56	カラ <u>チ</u> タ	[마 <u>리</u> 치다]	*60	ナンナ <u>チ</u>	[낫 <u>나</u> 치]	
ㄷ + 「ㅇ (e)」	*87	モツ <u>チ</u> ヤラ	[모 <u>츠</u> 라]	ㄷ + 「요 (yo)」	*63	フ* <u>チ</u> ヨク	[부 <u>츙</u> ]
「サ行音」のかな							
ㄷ + 「ㅗ (o)」	*7	タ <u>グ</u> ソ*	[당 <u>초</u> ]	ㄷ + 「ㅐ (ai)」	*65	ホ* <u>ツ</u> サ* <u>イ</u> タ	[보 <u>채</u> 다]
ㄷ + 「ㅇ (e)」	*10	ヒ* <u>ツ</u> サ* <u>イ</u>	[피 <u>츠</u> ]				

## 2.3 摩擦音

### 2.3.1 ㄸ(s)

#### (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「ㄸ」は、総29例が現れ、28例が「サ行音」のかなで現れる。残り1例はかな表記がない。

[表22] [韓] の語頭初声「ㄸ」に対するかな表記

「サ行音」	*1	サム <u>ギ</u> ン	[ <u>생</u> 긴]	*39	セ <u>シ</u> ユ	[ <u>세</u> 슈]
-------	----	---------------	---------------	-----	--------------	---------------

#### (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㄸ」は、総27例が現れ、25例がすべて「サ行音」のかなで現れる。残り2例はかな表記がない。

[表23] [韓] の語中初声「ㄸ」に対するかな表記

「サ行音」	*1	テン <u>セ</u> グ	[ <u>텐</u> 성]	*38	ハル <u>シ</u> ユ	[ <u>활</u> 슈]
-------	----	---------------	---------------	-----	---------------	---------------

## (3)終声

「ハ」は、終声の位置においては「ㄷ」に中和され、「ツ」が当てられる。これについては、すでに「ㄷ」の項目で述べたとおりである。

## 2.3.2 ㅎ(h)

## (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㅎ」は、総13例が現れ、すべて「ハ行音」で現れる。

〔表25〕 〔韓〕の語頭初声「ㅎ」に対するかな表記

「ハ行音」	*18	ハノ <u>ン</u>	[ <u>ㅎ</u> 노]	*56	フ <u>ン</u> シユ	[ <u>훈</u> 슈]
	*76	ヘエム <u>ル</u>	[ <u>헐</u> 을]	*67	ホイハ* <u>グ</u>	[ <u>훼</u> 방]

## (2)語中初声

〔韓〕の語中初声「ㅎ」は、総10例が現れ、9例が「ハ行音」残り1例はかな表記がない。

〔表26〕 〔韓〕の語中初声「ㅎ」に対するかな表記

「ハ行音」	*6	イ <u>フ</u>	[이 <u>후</u> ]	*66	モ <u>ハ</u> ム	[모 <u>함</u> ]
-------	----	------------	---------------	-----	--------------	---------------

## (3)終声

「ㅎ」は、終声の位置においては「ㄷ」に中和され、「ツ」が当てられる。〔韓〕には、1例のみ現れている。

〔表27〕 〔韓〕の終声「ㅎ」に対するかな表記

「ツ」	*34	チョ <u>ツ</u> カイ	[ <u>돌</u> 개]
-----	-----	----------------	---------------

## 2.4 鼻音

### 2.4.1 ㄴ(n)

#### (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㄴ」は、総15例。11例が「ナ行音」で現れ、3例が「ダ行音」、1例が「ジ」で現れる。「ダ行音」および「ジ」が当てられたものは、朝鮮語の鼻音「ㄴ」が異音として出わたり offglide の破裂音 [ʰd] をともなう場合があることと関連しているものと見られる<sup>14</sup>。

〔表28〕 〔韓〕の語頭初声「ㄴ」に対するかな表記

「ナ行音」	*2	<u>ナ</u> シユグ	[ <u>내</u> 중]	*53	<u>ニ</u> ルノン	[ <u>니</u> 르ㄴ]
「ダ行音」	*47	<u>ドル</u> ニカ	[ <u>널</u> 으니까]	*38	<u>ドル</u> タ	[ <u>널</u> 다]
「ジ」	*60	<u>ジル</u> ノン	[ <u>니</u> 르ㄴ]			

他の朝鮮語かな表記資料も同じ傾向を示し、おおむね「ナ行音」で現れ、まれに「ダ行音」等で現れる。

〔全：41〕 ナムン：残った      [나문(餘)]

〔全：34〕 ドイ{네}：あなた      [네]

〔訳：1:2b〕 ナノン：私は      [나ㄴ]

〔訳：1:56a〕 ヂルコブ：七      [닐곱]

#### (2)語中初声

〔韓〕の語中初声「ㄴ」は、総24例が現れ、すべて「ナ行音」のかなで現れる。

〔表29〕 〔韓〕の語中初声「ㄴ」に対するかな表記

「ナ行音」	*1	セグフ* <u>ミ</u> ニラ	[성품이 <u>니</u> 라]	*49	テ*グ <u>ネ</u> グ	[ <u>녕</u> 녕]
-------	----	------------------	------------------	-----	----------------	---------------



## (3)終声

〔韓〕の終声「ㄴ」は、総64例。61例が「ン」で現れ、「ル」、「ム」が1例ずつ現れる。残り1例はかな表記がない。「ル」で現れたものは「ㄴ」が流音化したもの、「ム」で現れたものは、「ㄴ」が後続の「ㅁ」と結合して「ㄹ(m)」に転じたものである。

〔表30〕 〔韓〕の終声「ㄴ」に対するかな表記

「ン」	*19	エク <u>ミン</u>	[영 <u>민</u> ]	*44	フ* <u>ン</u> メグ	[분 <u>명</u> ]
「ル」	*16	テ* <u>ル</u> レ	[전 <u>레</u> ]			
「ム」	*84	ハ <u>ム</u> タイ	[하 <u>뻬</u> ]			

## 2.4.2 ロ(m)

## (1)語頭初声

〔韓〕の語頭初声「ㄹ」は、総23例。22例が「マ行音」で現れ、1例が「ビ」で現れる。「ビ」で現れるのは、語頭初声「ㄴ」が「ダ行音」で転写されたのと同様に、朝鮮語の鼻音「ㄹ」が異音として出わたり offglide の破裂音 [ᄎb] をともなう場合があることと関連しているものと見られる。

〔表31〕 〔韓〕の語頭初声「ㄹ」に対するかな表記

「マ行音」	*5	<u>モ</u> ム	[ <u>몰</u> ]	*47	<u>モ</u> ルコ	[ <u>멀</u> 코]
「バ行音」	*79	<u>ビ</u> トン	[ <u>빈</u> 은]			

他の朝鮮語かな表記資料も同じ傾向を示し、おおむね「マ行音」で現れ、まれに「バ行音」で現れる。

[全: 48] マンナ: 会って [만나(會)]

[全: 78] ビリ: 予め [미리(預)]

[訳: 1:2a] マル: 物語 [말]

[訳 : 1:5a] 無恙{ブヤグ} : 無恙 [無恙{무恙}]

## (2)語中初声

〔韓〕の語中初声「ロ」は、総22例。すべて「マ行音」のかなで現れる。

[表32] 〔韓〕の語中初声「ロ」に対するかな表記

「マ行音」	*19	エク <u>ミ</u> ン	[영 <u>민</u> ]	*53	ア <u>ム</u>	[아 <u>므</u> ]
-------	-----	---------------	---------------	-----	------------	---------------

## (3)終声

〔韓〕の終声「ロ」は、総14例。13例が「マ行音」で現れる。残り1例はかな表記がない。

[表33] 〔韓〕の終声「ロ」に対するかな表記

「マ行音」	*9	タ <u>ム</u> タ	[탐 <u>타</u> ]	*71	ドグダ <u>ム</u>	[농 <u>담</u> ]
-------	----	--------------	---------------	-----	--------------	---------------

## 2.4.3 ○(ŋ)

「○」は、語頭初声の位置では子音として音価をもたないため、終声についてのみ述べることにする。

〔韓〕の終声「○」は総59例。「グ」が44例、「ク」が12例、「ム」が1例現れる。残り2例にはかな表記がない。「ム」は本来終声「ロ」に当てられるべきものであるので、終声「○」に「ム」が当てられた1例は、音節末音の [n] [m] [ŋ] の聴取が苦手な日本語母語話者特有の誤謬と見られる。

かな表記がない2例のうちの1例の\*12「エエク (영영)」は、音節末音「○」を有する音節が連続するときに、後続の音節の初声にわたり音 [j] がある場合、前の音節の音節末音「○」が脱落することがあるが、かかる現象を反映したものと見られる<sup>15</sup>。

[表34] [韓] の終声「ㅇ」に対するかな表記

「グ」	*1	テンセ <u>グ</u>	[ <u>텨</u> 성]	*52	チヨ <u>グ</u>	[ <u>뎡</u> ]
「ク」	*41	コ <u>ク</u> ジヤ <u>ク</u>	[ <u>공</u> 정]	*20	エ <u>ク</u> マ	[ <u>엥</u> 매]
「ム」	*1	サ <u>ム</u> ギン	[ <u>생</u> 긴]			
「かな無」	*30	マツ <u>タ</u> チャノ <u>ン</u>	[ <u>맛</u> 당참 <u>느</u> ]	*12	エ <u>エ</u> ク	[ <u>엥</u> 엥]

[全]・[訳] の終声「ㅇ」も、おおむね「グ」で現れ、「ク」も現れる。

[全: 17] ソラグホコ: 愛して      [스랑ㅎ고]

[全: 115] メクハヤ: 言付けて      [명히여]

[訳: 1:54b] クキヨグ: 月見      [구경]

[訳: 1:2a] 当{タク}ハヤ: 伴て      [当{당}히여]

## 2.5 流音 ㄹ(r)

### (1)語頭初声

[韓] の語頭初声「ㄹ」は、総3例。2例が「ラ行音」、1例が「ナ行音」で現れる。「ナ行音」が当てられたものは、頭音法則により「ㄹ」が「ㄴ」に変化したものである。

[表35] [韓] の語頭初声「ㄹ」に対するかな表記

「ラ行音」	*16	レソ	[ <u>레</u> 스]	*18	レタイロ	[ <u>레</u> 대로]
「ナ行音」	*30	ネグニ	[ <u>녕</u> 리]			

### (2)語中初声

[韓] の語中初声「ㄹ」は、総51例。46例は「ラ行音」、4例が「ナ行音」で現れる。残り1例はかな表記がない。「ナ行音」のかなが当てられたものは、前接する鼻音に同化して「ㄹ」が「ㄴ」に変化したものである。

[表36] [韓] の語中初声「ㄷ」に対するかな表記

「ラ行音」	*16	テ* <u>ル</u> レ	[전 <u>레</u> ]	*52	ア <u>ラ</u> イ	[아 <u>래</u> ]
「ナ行音」	*30	ネグ <u>ニ</u>	[ <u>령</u> 리]	*75	シム <u>ナ</u> ン	[심 <u>란</u> ]

## (3)終声

[韓] の終声「ㄷ」は、総37例が現れ、36例が「ル」で現れる。残り1例はかな表記がない。

[表37] [韓] の終声「ㄷ」に対するかな表記

「ラ行音」	*19	ス <u>ル</u> コブタ	[ <u>슬</u> 겁다]	*66	サラム <u>ル</u>	[사 <u>름</u> 을]
-------	-----	----------------	----------------	-----	--------------	----------------

[全]・[訳] の終声「ㄷ」は、「ル」と「ロ」で現れる。

[全: 74] コルコ: 挙げて [걸고]

[訳: 1:2a] 日本{イルボン}ノン: 日本は [日本{일본}은]

[訳: 1:27b] ハンカチロ コシニ: 同然で御さる [흔가지일것이니]

## 2.6 その他

## 2.6.1 Δ(z)

[韓] の「Δ」は、総2例。いずれも語中初声の例であるが、そのうち1例が「ザ行音」で現れている点が注目される。

[表38] [韓] の「Δ」に対するかな表記

*88	ソ <u>ン</u> ゾ	[손 <u>조</u> ]	*75	モ <u>ヲ</u> ミ	[목 <u>술</u> 이]
-----	--------------	---------------	-----	--------------	----------------

中期朝鮮語に存在した子音「Δ」は、音素としては16世紀前半に消失したとされており、表記上では16世紀末までかろうじて維持されていたが、17世紀に入って完全に廃用されたものである<sup>16</sup>。17世紀末以降の資料である [韓] にお

いて、なおもまだ「△」の音価を示すと見られる「ザ行音」のかな表記が現れることから、後代においても、一部の語において「△」がその音価を維持する場合もあったのではないかと考えられる。

### 2.6.2 語頭複子音（ロ－系、ハ－系）

中期朝鮮語においては語頭複子音（ロ－系、ハ－系）が許容され、近世朝鮮語においても一部その残存形が保たれていたと信じられている<sup>17</sup>が、本資料においてはその痕跡を確認することができない。すなわち、すべて単子音で現れている。

〔表40〕 〔韓〕のロ－系に対するかな表記

「 <u>ㄹ</u> 」	*75/ *3	<u>ト</u> チラ / <u>ト</u> キラ	〔 <u>ㄹ</u> 이 <sup>ㄹ</sup> 라〕	*77	<u>ト</u> ハル	〔 <u>ㄹ</u> 을〕
「 <u>ㄴ</u> 」	*38	ソ <u>ン</u> シ	〔 <u>ㄴ</u> 은〕			
「 <u>ㄷ</u> 」	*84	<u>タ</u> イ	〔 <u>ㄷ</u> 〕			

〔表41〕 〔韓〕のハ－系に対するかな表記

「 <u>ㅅ</u> 」	*40	<u>カ</u> イツチャ	〔 <u>ㅅ</u> 치 <sup>ㅅ</sup> 아〕	ㅅ	*78	<u>ス</u> アシヤ	〔 <u>ㅅ</u> 어서 <sup>ㅅ</sup> (씨서)〕
--------------	-----	---------------	------------------------------	---	-----	--------------	----------------------------------

上の例において、語頭複子音の1つめの子音「ロ－」「ハ－」に対応するかな表記を確認することはできず、すべて単子音化した後代の形を反映したものである。

## 3. 結論

本論文では、〔韓〕の朝鮮語かな表記の子音部分について、ほぼ同時期の朝鮮語かな表記資料である〔全〕・〔訳〕と比較しながら考察を試みた。〔韓〕の朝鮮語かな表記は、他の朝鮮語かな表記資料とおおむねは類似した傾向を示す一方で、「ㄷ(d)」口蓋音化を過剰訂正した特異な例が現れるなど、朝鮮語東

南方言の特徴を示す独自の特徴も存在することが明らかとなった。

本論文の考察により明らかになった〔韓〕の特徴の要点をまとめれば、以下のとおりである。

- ①「ガ、ダ行音」の鼻音性の喪失：〔韓〕の例\*74の「セダイロ」(세디로)のように、鼻音が前接しない場合においても、ときに「ダ行音」が当てられることがあるのは、その他の朝鮮語かな表記資料にも共通して見られる現象であり、この時期、「ダ行音」が徐々に鼻音性を失っていく過程にあったことを示すものである。一方、「ガ行音」については、例\*12の「トギラ」(또이라)のような例外も見られるものの、濁音が付されるのはほぼ鼻音が前接する場合に限られている。当時の日本語濁音において、「ガ行音」が未だ鼻音性をほぼ保持していたのに対し、「ダ行音」は徐々に喪失していく過程にあったことを示すものと考えられる。
- ②口蓋音化の過剰訂正：〔韓〕において、「또이라」という語は、多くは「ㄷ」口蓋音化が起こった形態の「또지라」(トチラ)という形であるが、ときに「ㄱ(g)」へと過剰訂正した「トギラ」「トキラ」という形も現れている。これは、朝鮮語東南地方に顕著な音韻現象であり、本書の朝鮮語が東南方言を反映したものであることを示している。
- ③△(z)：16世紀前半に音素としての命脈を絶ったとされる「△」に対し「ザ行音」が当てられた例が現れる。〔韓〕は17世紀後半の資料であるので、「△」の消失時期は通説よりも遅い時期ではなかったかと疑われる。
- ④語頭初声「ㄴ(n)」および「ㄹ(m)」に対し、ときに「ダ行音」「バ行音」が当てられることがあり、その傾向はその他の朝鮮語かな表記資料にも一致しているが、これは「ㄴ」「ㄹ」の異音の出わたりをあらわしたものと見られる。

以上の本論文の考察により、〔韓〕も既存の朝鮮語かな表記資料に匹敵する朝鮮語音韻史資料として位置づけられることが明らかになったと信ずる。

## 注

- 1 その母音部分についての検討・考察は、金文姫（2017）において実施した。
- 2 『宗家文庫史料目録（記録類Ⅱ）』（宗家文庫調査委員会編、巖原町教育委員会発行、1985年）p.460。
- 3 その記載されている年代は元禄9年（1696年）までである。この事実から推して、本書『信使并譯官聘問之次第（仮題）』全体の成立年は、元禄9年以降であることが明らかであるが、おそらく元禄9年をさほど下らない時期であろうと推測される。
- 4 享保14年（1729）雨森芳洲著。1冊。写本。中国明代の汪廷訥の著した教訓書「(全一道人) 勸懲故事」を朝鮮語に訳し、これに日本語訳文を配したもの。朝鮮語本文の部分は全文かなによって表記されている。本書については、安田章（1964）に本文影印と詳細な解題があり、宋敏（1986）など朝鮮語史の立場からも大いに研究がなされてきた。かな書き朝鮮語資料の代表格的資料である。
- 5 早稲田大学服部文庫所蔵〔図書番号：イ17-2082-1～3（特）〕。3冊。写本。江戸中期の儒学者の服部南郭が寛延3年（1750）に筆写したもので、その底本は、寛延元（1748）の朝鮮通信使に随行した対馬人によって江戸にもたらされたものであったと推測される。岸田文隆（2010）等を参照。
- 6 ハングルのローマ字転写は、河野六郎（1955:367）による。以下同様。
- 7 初声「ㄱ」に前接する可能性のある音節末子音の鼻音には「ㄴ(n)」、「ㄹ(m)」、「ㅇ(ŋ)」の3種がある。
- 8 かな表記から推定されるハングル表記の復元形を〔 〕内に示す。以下同様。
- 9 「\*」は三点の濁点を表す。
- 10 土井忠生訳（1955）p.637の「D, Dz, G の前の母音に関する第三則」を参照。なお、[韓]において、鼻音が前接する環境においても濁点を付さない「カ行音」も現れているが、それは濁点の付加が必ずしも義務的ではない

かったことを示している。

- 11 김주필 (2015:108) を参照。
- 12 pp.299-302。
- 13 朝鮮司訳院の倭学書（日本語学習書）。10巻。康熙15年（1676）刊。著者は康遇聖。康遇聖は文禄の役に捕虜になって日本に送られ、10年間日本で暮らし、その後、朝鮮に戻り訳官として活躍した。
- 14 安田章（1964）p.25、宋敏（1986）p.39。
- 15 [全]にも同様の現象が観察され、安田章（1964:9）には、「松陽(송양) : ショヤグ」、「従容(종용히) : チョヨギ」の例が現れている。
- 16 李基文（1998）p.203。
- 17 최현배 (1961:551-560)、허용 (1995:348-355)、岸田文隆（2009:11-26）を参照。

#### 参考文献

- 金文姫（2017）「『韓語覚書』の朝鮮語かな表記について―母音について―」、  
『日本語文學』第73輯、pp.3-29、韓国日本語文学会
- 김주필（2015）『구개음화의 통시성과 역동성』、파주 : 태학사
- 金周弼（2016）岸田文隆訳「近代韓国語의 ‘t > ʦ’ 變化를 통해 본 音韻變化의 機制―規則性 假設과 語彙擴散假設의 問題点과 代案을 中心으로―」、  
『朝鮮學報』、第239輯、朝鮮学会
- 宋敏（1986）『前期近代国語 音韻論 研究』、서울 : 塔出版社
- 李基文（1998）『新訂版 国語史概説』、파주 : 태학사
- 최현배（1961）『고친 한글갈』、서울 : 정음사
- 허용（1995）『국어 음운학』、서울 : 샘문화사
- 岸田文隆（2008）「早稲田大学服部文庫所蔵『朝鮮語訳』の朝鮮語かな表記について（その1：子音について）」、*Dynamics in Eurasian Languages*、pp.71-102、神戸：神戸市看護大学



- 岸田文隆 (2009) 「早稲田大学服部文庫所蔵『朝鮮語訳』について－文献学的考証と言語資料的価値－」、京都大学言語学懇話会第81回例会、2009年12月、会議報告 / 口頭発表
- 河野六郎 (1955) 『研究社世界言語概説』、市河三喜・服部四朗編、pp.357-439、東京：研究社出版株式会社
- 土井忠生 訳 (1955) J. ロドリゲス 『日本大文典』、東京：三省堂
- 安田章 (1964) 『全一道人の研究』、京都：京都大学国文学
- 安田章 (1973) 『三本対照捷解新語 釈文・索引・解題篇』、京都：京都大学国文学会

## Marking Consonants: “A Vocabulary List of the Korean Language (韓語覚書)” and the Japanese notations of the Korean language in the late seventeenth-century Tsushima Island

Kim Moon-Hee

“A Vocabulary List of the Korean Language”, made in Tsushima, Japan in around 1696, is a list of Korean vocabulary including the Japanese orthography of the Korean words on the list. It exists as a two-and-a-half- page appendix to the tentatively titled “Codes for Receiving Joseon Envoys and Interpreters on the Tsushima Island (使并譯官聘問之次第)” at the Historical and Folk Archives of Tsushima (対馬歴史民俗資料館). On the vocabulary list, Japanese and Korean annotations for each Korean word follow under the sample Korean words and sentences. Also, in the descriptions and annotations in Korean, sometimes Katakana is used.

The notable characteristics of the consonants in “A Vocabulary List of the Korean Language” are the hypercorrection of the “d” palatalization, the “d-sound” and the “g-sound” which had no nasal sounds, and the “△ (z)-sound” which is generally believed to have been lost from the 15th to the late 16th century and is seen in the “A Vocabulary List of Korean Language”, the material of the late 17th century.

By specifically examining the consonants in the Japanese orthography of the Korean language in “A Vocabulary List of Korean Language”, this paper can shed new light on the historical phonetic and phonological studies of the Korean language.